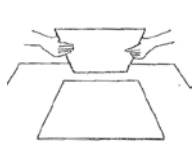


THE SEIHAN

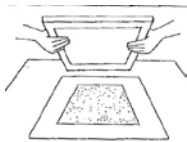
スクリーン印刷の製版

取扱説明書

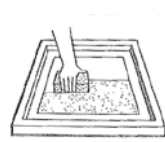
1 感光フィルムの貼付け方法



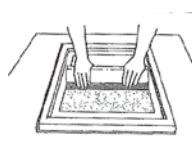
1. 新聞紙の上に感光フィルムを乳剤面を上にしてのせます。乳剤面は指先を濡らしてつまむと溶ける面です。



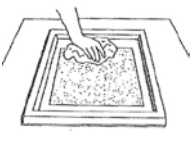
2. スクリーンをゴミがないことを確認してかぶせます。スクリーン版と感光フィルムが密着しているか指で確認する。



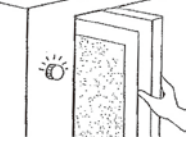
3. 水を含ませたスポンジを強く押しつけるようにしてスクリーン面に素早く擦ります。



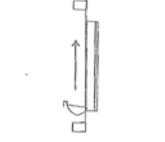
4. スキージで余分な水分を取り除きます。



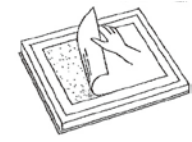
5. 隅に追い出した余分な液をふき取ってください。



6. 乾燥機などで乾燥させますが、乾燥機がない場合は、ドライヤーでも乾燥することができます。



7. 乾燥後、スキージ面より貼付け液をバケツで2回連続コートした後乾燥します。



8. よく乾燥した後、ベースフィルムをはがします。

製品の品質チェック
感光フィルムを長期間保存されてからご使用される場合、フィルムの劣化が生じていることが心配されます。このため、製版作業上トラブルを起こさないように事前に下記を示すよう名チェックをしていただくをお願いいたします。
(方法) 適当な容器に25℃のお湯を入れ、感光フィルムを5mm角程度の未感光フィルムを浮かべ、完全に水分散らかさず確認してください。

2 焼付け方法

焼付けは下図のように製版機+ポジフィルム+感光フィルムを貼った枠+コルク板(赤いフィルムを下面)+重し(本などを)をセットします。

この時ポジフィルムは印字面を上向きにします。またポジフィルムと感光フィルムの間は隙間ができないよう上から重しをのせて密着させてください。

露光時間の目安は30分間です。(メッシュや貼付け液の暑さにより若干異なります。)
付属のタイマーで計測してください。



3 現像の方法

焼付けが終わった後は

水槽(アルミ枠が入るぐらいの容器に水をためる)の中で2~3分ほど付けます。未感光部分が溶けてきますので、スキージ面(貼付け液を塗った面)からスポンジで軽くこすりますと徐々に未感光部分が溶けてきます。

軽く両面にシャワーをかけます。現像が完成すれば、乾いたタオルで軽く拭き取ります。ドライヤーで乾燥すれば現像は完成です。

再露光の方法

現像が終わった後は

乾燥させたといっても、感光剤は完全に露光されていません。数枚程度なら印刷はできますがそれ以上印刷すると膜をはがれてきたりします。そんな時は、再露光と言ってももう一度光を当てます。通常露光時間以上の光を当ててののですが、日当たりのよい日ですと太陽の光を当てるのが一番早く再露光ができます。

検査でゴミとか何かでピンホールが出来れば貼付け液をヘラの先につけて塗ります。(塗った後はドライヤーで乾燥後露光します。)

再露光が済めば

付属のテープで周囲からインキが漏れないようにテープを貼ります。

4版の再生方法

印刷が終わった後は

不要になった製版は再生することができます。
以下の手順で、紗を張り替えずに感光剤だけを除去することです。

不要になった製版はインキが残らないように十分に洗浄しておきます。
インキを溶剤などで除去した場合いったん乾燥させます。
再度、水道水などで感光膜を膨潤させます。（水につけておくことも可能です）
付属の剥離液（粉）を2Lのペットボトルに全部入れて水を1Lほど入れておきます。
水につけておいた製版を取り出し、付属のスポンジに剥離液を浸みこませ感光剤の両面にこすりつけます。
両面を剥離液のついたスポンジで数回こすると感光膜が薄くなって溶けてきます。
完全に溶ければ水で綺麗に洗い流してください。
乾燥すれば再生は完了です。

*剥離液をつけて途中で乾燥させると二度と再生はできません。
*再生に使ったスポンジは十分に洗浄してください。（現像の時にも使用しますから。）

トラブルの原因と解決方法

	原因	解決方法
膜が現像中に剥がれる	露光時間が短い 乾燥が不十分なまま露光した	露光時間を増やしてみる 十分に除湿乾燥をさせる
シャープな絵際が出来ない	ポジフィルムの濃度が薄い フィルムと感光剤の密着が悪い 露光時間が不適當である 水圧が強すぎる	ポジフィルムの濃度を上げる 重しを強くする 適正な露光時間を見つける 水圧を弱くする
ピンホールが多い	ゴミやほこりがフィルムや感光機に付いている	製版機やポジフィルムのゴミやほこり等に注意して綺麗にする
膜が弱い	露光時間が不十分である 版膜強化液の処分が不十分である	露光時間を増やす 版膜強化液をむらなく十分に乾燥させる
現像性が悪い	ポジフィルムの濃度が薄い フィルムと感光剤の密着が悪い 露光時間が不適當である 水圧が強すぎる	ポジフィルムの濃度を上げる 重しを強くする 適正な露光時間を見つける 水圧を弱くする

監修：美濃商事株式会社
THE SEIHAN 事業部
定価：100円
複製禁止